

森の不思議を探しにいこう

- 1 日時：令和1年7月15日（月・祝）
午前の部 11：00～12：00
午後の部 13：15～14：15
- 2 場所：福井ふるさと学びの森（大野市 自然保護センター自然観察の森）
- 3 参加者：5人（午前：大人1人 子ども1人、午後：大人1人 子ども2人）
- 4 講師：斎藤 寿子さん（自然観察指導員の会）
- 5 主催：福井県自然保護センター、福井県里山里海湖研究所

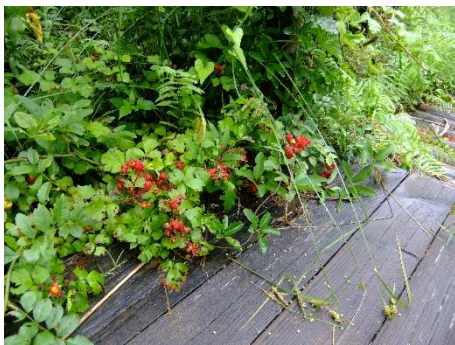
6 イベントのようす：

今日は参加人数は少なかったものの、参加者と講師がしっかりとお話でき、中身の濃い観察会でした。斎藤先生から「小雨で葉っぱの緑が嬉しそう！」とのお声をお聞きし、先生は本当に自然が好きなんだなあと感じながらスタートしました。

午前中、まずは駐車場前のエゴノキから。斎藤先生のリュックから取り出されたのは少し水の入ったペットボトル。エゴノキの実を少しだけ傷をつけてペットボトル内でシャカシャカすると泡がたちました。サポニンという物質が作用しているとのことですが、昔の人はエゴノキを石鹸の代わりに使ったとの説明で納得。マンサクの木では参加者に枝のしなやかさを実感してもらい、昔はロープやカンジキの材料にしたと教えてもらいました。馬取池付近ではナワシロイチゴが群生し、口に入れてみると人工甘味料



エゴノキの実をシェイク



ナワシロイチゴ

には無い、ほんのりとした自然な甘みを感じることができました。トチノキの葉っぱは大きく、参加者から「なぜ植物によって葉の形がちがうの？」との質問もありました。シナノキの説明では、種がプロペラのように回って遠くへ飛んでいくことを先生の作った模型で教えてくれました。シナノキの樹皮は丈夫で、服などにして利用したそうです。ゴウゴウしてそうなので着心地は疑問ですが…。午前中は、エゴノキやマンサク、そしてシナノキ等、自然の物の特性を活かして生活にうまく利用した先人たちに脱帽でした。

午後は昆虫が大好きな兄弟が参加してくれました。今日の目標は「ナナフシを見つける！」だそうです。子どもの観察力は素晴らしく、大人の目ではすぐには見つけられないカマキリを次々と発見し、素手で捕まえて喜んでいました。そして遂にナナフシらしきものを発見！その場では同定が難しかったので、自然保護センターへ戻ってガラスケースでじっくり観察。無事、「ナナフシです。」のお答えをいただき、大満足でした。熱心に観察してくれたので、終了は予定時刻を1時間オーバー。でも、今日参加してくれたような自然が大好きな子どもたちがもっともっと増えてくれるとうれしい限りです。

残念ながらカブトムシはまだ成体になっていないようで、その気配すら感じることはありませんでしたが、クヌギやコナラがたくさん生えている自然保護センターなので、もうすぐその姿もたくさん見ることができそうです。



白い毛虫



ゴミグモ